

いえ『ZERO』<図4>が95年なので、それまで短編を5、6本描いていました。

<図4>『ZERO』

●幻冬舎コミックス ●540円＋税 ●2年1月24日初版
95年に「コミックバーガー」で前編・中編・後編と各60ページ掲載。単行本の巻末でデビュー以来の担当編集さんの投稿時の冬目先生の思い出が載っている。

○はじめの連載はいかがでしたか？

あの当時はけっこうヶ月に60ページとか描いていましたね。今はそんなに描きませんが（笑）。ネームとかで悩んだとかも記憶にないです。

○アシスタントの経験は？

ないです。大学時代に先輩のところへみんなで行って手伝ったというのがありますが。

執筆作業

○一番時間をかける作業。ネームはそんなに悩まれないとか大まかなストーリーを決めて、だいたいこの話でいこうというのは、1日、2日喫茶店とかで考えると出てくるのですが、悩むのは台詞とか、絵にする段階での構図とか。

○下書きはけっこう描き込まれるほうですか

構図が決まらないと何回も消しては描きを繰り返します。

○構図は下書きを描く段階で決め込んでいくわけですか？

やはり描いてみないとわからない。描いてみてコマの流れを崩してしまうと思えば、もうちょっとと自然な構図にしようとか。ページごとではなく見開きの構成で流れをみます。

○お話の展開はどのくらい先まで考えていますか？

だいたい最後まで決めて描きます。『羊のうた』もそうです。

○そのほうがやりやすい

『羊のうた』は大河ドラマだったのでやりやすかったですね。やる事が決まっているわけじゃないですか。そのなかでその月、その月でページ数の終わりが来たらそこで終わるという感じで。

○話がある程度進むと、登場人物が勝手に動き出すという話を聞きますが

長く連載をやっているとキャラクターたちが固まってくるので、そういうこともありますね。

○冬目先生の作品は長くやられている作品が多いですが

そうですね。でも巻数は出ていない（笑）。

○キャラクターが勝手に動くとき自然にまかせている？

ある程度ストーリーに沿っていますが、流れにまかせています。

○作者としてそれをおもしろがっている

そういう時もあります。とにかくキャラクターが勝手に動くというのはとってもよい状態なので。

作画

○キャラクターを描く上で影響を受けた作家は？

いやあそれはもう一番好きだったのが高橋留美子さんなので、それになると思います。

○キャラクターの容姿を決め込むまでにけっこうスケッチとかはされるのですか？

最初にやっぱりイメージを固めるために服のデザインとかも含め、全身を描きます。



図4

○和服の柄とかは

まんがのなかで柄とはあまり描きませんが、形かな。色を付けたときにイメージとかも考えます。最初にこの人は青い人にしようとか、赤い人にしようとか（笑）。

○小物とかは

小物は話に絡んでこない限りはその時、その時で考えています。

○キャラクターを描く上で一番ポイントに置くところは？

あんまり考えたことはないです。しいて言えば全体的なもの。

○キャラクターの色気とかは？

そんなことは考えたことないですね（笑）。女の子を描くのは大好きですが、女の子の身体を描くのが好きとかいうのでもない。ストーリーのなかでのキャラクターの役割を考えて描いて、結果として読者から人気がある場合はありますが。

○背景は普段、スケッチなどをされているのですか？油絵をやっていたからパースにこだわるとか

わたしはそうでしたが、他の人は違うと思います。背景は資料を見たり、自分で写真を撮って描いています。

○『イエスタディをうたって』の単行本のカバーの写真はご自身が撮られたものですか？

そうです。2巻の折り返しは知り合いのデザイナーさんにやってもらいました。

○背景はこだわるほうですか

『羊のうた』みたいに舞台がはっきりしている日本家屋とか、「アフタヌーン」の新シリーズの古いアパートとかはこだわりますが、『イエスタディをうたって』のような現代劇はそんなには。

○でもけっこう街並は描かれています

うん、街並は描かざるをえないので描いています（笑）。

○それはドラマのなかで必要だから

やはりキャラクターだけ描いていると画面が抜けにくいから背景を描かないといけない。

○アシスタントは？

基本的に一人だけです。それもトーンを貼ってもらうだけで削るのは自分でやっています。ペン入は自分で全部やっています。

○作画はけっこう早い？

まあそうなのかな。

『羊のうた』<図5>

○連載のいきさつは？長いものをというのあったのですか？

いえ、ただ連載をしましょうというだけ（笑）。当初は3巻くらいの予定だったような気がします。

○『羊のうた』の着想は現代劇で和物、そして吸血鬼と話されていますね<注1>

吸血鬼は吸血鬼で別の話を考えていたんですよ。

<注1>今回のインタビューで伝聞的な件は、第7巻の巻末でのインタビューを参考にして質問を行っています。

○ヒロイックものになるのは避けたかったとか？

吸血鬼ものって割と定番な感じで、どの時代でも必ずありますが、アクションものっぽいものが多いような。敵がいて、とか、ヴァンパイアハンターみたいなのがいて、とか、そういうものだとたく



図5